

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！」 ～ 社会的自立、社会貢献のできる生徒を育てます ～

生徒の第一希望をかなえる進学にも就職にも強い学校をめざします。

- ・ 普通科…多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校
- ・ 体育科…競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校

2 中期的目標

1 確かな学力の向上

- (1) 生徒のニーズに応えた学習指導の充実を図る。
 - ア TT、少人数展開、習熟度別、ICT活用などによる生徒が満足できる授業を展開する。
 - イ 始業前学習や短期集中講座の実施により、基礎学力の定着をめざした学習を継続的にサポートする。
- (2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。
 - ア 校内研究授業週間をベースに、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。
 - イ 生徒対象の授業評価、保護者の授業参観時の評価を授業力向上に繋げる。
 - ※ 平成30年度入学生の卒業時アンケートで「3年間勉学に一生懸命取り組めた。」と答える生徒（H29：72%）を75%、「大塚で3年間学んで学力面で伸びた。」と答える生徒（H29：66%）を70%以上を目標とする。

2 志や夢のはぐくみ

- (1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能（的確な情報提供・進路HR・進路相談）の充実を図る。
 - ※ 進路面で「第1希望をかなえることができた（ある程度できた）。」と答える生徒（H29：75%）が90%以上となるよう進路指導の充実を図る。
- (2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。
- (3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。
 - ※ 大学（4年制）進学率（H29：59.2%）を65%、センター試験受験者（H29：60名）70名以上をめざす。
- (4) 就職内定率100%（H29：19名）を維持する。

3 豊かな心と社会性の育成

- (1) 「あたりまえのこと（挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守）をあたりまえに！」を合言葉に規律規範の確立に努める。
 - ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持・発展させる。
 - ※ 遅刻総数（教務遅刻）（H29：544件）450件以内とする。
 - イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安心安全な学校づくりを推進する。
 - ウ 生徒状況の把握と保護者との緊密な連携を図るため、保護者との三者面談100%実施をめざす。
 - エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用する。
 - オ 学校行事（大塚祭）の充実及び部活動の充実を図る。
 - ※ 普通科生徒の部活動への参加を積極的に推進し、部活動加入率（H30：74.2%）を70%以上とする。

4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進（開かれた学校づくり）

- (1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。また、2020年東京オリンピック出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。
 - ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。
 - イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。
- (2) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。
- (3) 進展する少子化に対応するための魅力ある学校づくりを推進する。
- (4) (株)大塚製薬との産学連携協定（平成30年3月26日締結）による
 - ア スポーツ講演会の開催
 - イ スーパーインストラクター招聘事業
 - ウ 栄養学講習の開催
 - エ キャリアデザイン構築事業
 - オ 教職員研修の実施を行う。
 - カ 民間企業と教育公務員の「働き方」の違いを相互に理解しながら「働き方改革」の進捗などを比較、検討し検討会議を行う。

5 次代を担う人材の育成

- (1) 若手教員の育成とミドルリーダーの養成を図る。
 - ア 管理職や中堅教員が講師となり、教職経験の少ない教員を対象とした校内研修を実施し、人材を育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
------------------------------	--------------

<p>【授業】 (生徒)「授業はわかりやすく楽しい」 肯定率 31% (以下肯定率) (教員)「生徒のレベルに応じたわかりやすい授業に努めている」 80% ☆ 授業力向上に取り組んできたが、結果の差が生じた要因についての精査と改善策の検討が喫緊の課題である。</p> <p>【生徒指導】 (生徒)「悩みや相談に親身になってくれる先生がいる」 50% (教員)「教育相談体制が整備されており、担任以外の教員とも相談できる」 62% (保護者)「先生は生徒・保護者の悩みや相談に親身になって応じてくれる」 60% ☆ 生徒の肯定率は50%であり、また教員、保護者も60%程度であることから、生徒の生活背景や保護者の想いを踏まえ、寄り添った生徒指導に努める必要がある。</p> <p>【進路指導】 (生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」 60% (保護者)「進路や職業などについて適切な指導を行っている」 68% (教員)「生徒が興味・関心、適正に応じた進路選択ができるようきめ細かい指導を行っている」 62% ☆ 進路指導に関して、6割程度の生徒・保護者、教員は肯定的に捉えている。 今後とも一層の指導の充実を図り、より多くの生徒・保護者が進路指導に関する認識を高め、生徒の進路実現に繋げる必要がある。</p> <p>【学校運営】 (教員)「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」 87% (教員)「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」 65% (教員)「校務分掌などの分担がなされ教職員が意欲的に取り組む環境にある」 44% ☆ 校長の学校運営方針等が一定浸透していると推察できるが、教員が意欲的に取り組めるような校内体制の整備に取り組む必要がある。</p>	<p>第1回(平成30年6月4日) ○ 学校経営計画について ・ 教員の在籍年数、年齢構成が少し短く二極化している。経験豊富な教員が在職中に業務等の引き継ぎを行う事と、次世代の育成が不可欠。 ・ 近隣の住民から「大塚生は本当に良く挨拶をしてくれる。」との話を聞く。引き続き指導をお願いしたい。</p> <p>第2回(平成30年11月12日) ○ 第1回授業アンケート結果について ・ 生徒は自分では頑張っていると思っているが、教員が求めている授業への取り組み姿勢や内容にギャップがあるのではないかと。 ・ 結果について各教諭に多面的にフィードバックを行い、授業改善に繋げる必要がある。 ・ 見学した家庭科の授業で、スマホを利用しプロジェクターを利用していた。ICTを活用した授業の一層の推進を望む。</p> <p>第3回(平成31年2月4日) ○ 学校教育自己診断アンケート結果について ・ 結果を丁寧に精査・分析し、課題を明らかにした上で、改善策を検討・実施する必要がある。 ・ 生徒の「地域交流」の肯定率が低いが、「ふれあい大塚スポーツ教室」など、特色ある地域交流を行っているのも、もっと校外に広報すべき。 ・ 進路指導に関して、保護者に分かりにくい部分があった。保護者説明会を充実させるなど、進路情報の提供を推進して欲しい。 ○ 平成30年度学校評価及び平成31年度学校経営計画(案)について ・ 3年度の大塚高校をどのような学校にしたいのかを明確にし、具体的な取り組みを進めるべき。 ・ 部活動が「ドライブイン」について、学校の現状を踏まえ、スケジュール感をもって進めて欲しい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の向上	授業力向上の取組みと生徒の学習意欲を高める取組みの充実 ア ICTを活用した授業の推進 イ 授業研究の推進	ア・ICTを活用した研究授業を実施し、さらに魅力ある授業への取組を推進する。(H29:45%) イ・学習指導部の取組みとして、研究授業週間を1・2学期に設定し、全教科で研究授業を実施する。(H29:90%) ・授業アンケートの結果を授業力向上委員会において分析することにより各教員の授業改善を進める。(H29:1回目3.00 2回目:3.04) ・初任1・2年目の教員を対象とした校内研修を充実させる。(H29:20回)	ア・授業にICTを活用する教員の率を50%以上に高める。 イ・授業相互見学を年間2回実施し、実施率を90%以上に高める。 ・授業アンケートの全教員の平均値を3.20(9項目4点満点)に引き上げる。 ・初任者等を対象とした校内研修を年間を通じて実施する。	ア・教員向け学校教育自己診断「ICTを活用した授業」の肯定率は46.5%であり、前年より僅かに上回っているものの、目標に届かなかった。次年度は、機器の整備も含め、一層の充実に取り組むたい。(△) イ・年2回の「研究授業週間」に相互見学した割合は48%に留まっている。次年度は期間を設けず実施することを検討する。(△) ・授業アンケートの全教員の平均値は3.14であり、僅かに目標に届かなかったが、昨年度よりも上昇しており、次年度も継続して授業改善に取り組むたい。(△)
	ウ 学習意欲の向上	ウ・始業前学習の充実を図る。 ・成績不振者を対象にした短期集中講座を実施する。(H29:週平均2、6回) ・自習スペース等を有効活用し、自学自習習慣を確立させる。 ・習熟度別展開授業の拡充により、個々の生徒に適応した学力の向上を図る。	ウ・始業前学習の実施回数を週平均3回とする。 ・定期考査前講習(H29:年間5回)、長期休暇中の補習(H29:夏期10日、冬期4日)を継続実施する。 ・学校教育自己診断において「少人数展開や習熟度別授業はわかりやすく取組みやすい。」という生徒の回答を50%以上とする。(H29 普通科35.9%、体育科47.6%)	ウ・始業前学習、定期考査前講習、長期休暇中の補習を計画どおり実施した。(○)
	エ 体育科教育の充実・発展	エ・教育課程の改訂に向けたカリキュラムの検討を行う。		・生徒向け学校教育自己診断の質問を「少人数展開や習熟度別授業」と限定せず、授業が「わかりやすい」に変更した結果、肯定率は31.0%(普通科29.6%、体育科34.5%)であった。一方、授業アンケート全体の肯定率は79.8%であり、授業を一定評価していることが伺える。(△)
	オ 新教育課程への対応	オ・図書館運営の充実を図り、生徒の読書活動の促進を図る。	オ・図書館の利用率の向上	オ・体育科専攻研究や総学なども含め、調べ学習での活用を促進した。図書の貸出状況から、約40%の生徒が1冊借りており、昨年度とより僅かに増加している。(○)
	カ 読書活動の促進	カ・クラス減少に伴い空き教室に自学自習ができるスペースを拡充する。 キ・校内での検討会を毎月定例開催する。		

府立大塚高等学校

<p>2 志 夢 の は ぐ み</p>	<p>将来の夢の実現に向けた取組みの充実 ア 進学講習の推進</p> <p>イ 進学支援の充実</p> <p>ウ キャリア教育の推進</p>	<p>ア・より充実した進路を獲得するための発展講習を実施する。</p> <p>イ・進路別授業・演習を2年次より実施する。 ・大学見学会を1年生対象に実施する。(H29:12大学) ・勉強合宿(「進路サマーセミナー」)を実施する。(夏期桃山学院大学にて)</p> <p>ウ・就職内定率の安定化を図る。教員による企業開拓や公務員試験に向けた講習の実施。</p>	<p>ア・早朝、放課後講習や夏・冬休み集中講習、センター試験前の直前講習を実施する。</p> <p>イ・進路分野別説明会を1、2年次において、大学見学会を1年次において実施する。 ・勉強合宿参加者を50名以上とする。 ・センター入試受験者60名以上、国公立大合格者5名以上、難関私立大合格者30名以上をめざす。(H29:センター60名、国公立1名、難関私大15名) ・卒業生アンケートの「第1希望をかなえることができた(ある程度できた)」と回答した率を85%以上とする。(H29:75%)</p> <p>ウ・就職内定率100%を維持する。 ・警察、消防、自衛隊等の公務員試験合格者数10名以上とする。(H29:警察6、消防1名)</p>	<p>ア・各種補習を機を逸せず実施した。「夏季集中講習」として3年生を対象に桃山学院大学にて実施した。(○)</p> <p>イ・1・2年生とも進路分野別説明会を実施した。1年生「大学見学会」を7大学にて実施した。(○) ・勉強合宿への参加は29名であった。(△) ・センター入試受験者26名、国公立大合格者2名、難関私立大合格者34名で、目標に達しなかった。次年度は生徒の実態や大学入試の変化を慎重に分析し、進路指導を行う必要がある。(△) ・卒業生アンケートの「第1希望をかなえることができた。」と回答した率は87.4%であった。(○)</p> <p>ウ・就職内定率は100%を維持することができた。(○) ・公務員試験の志願者は減少し、合格者は警察の1名であった。(△)</p>
<p>3 豊 か な 心 と 社 会 性 の 育 成</p>	<p>規律・規範意識の確立と部活動の活性化 ア 基本的な生活習慣の徹底</p> <p>イ 部活動の推進</p> <p>ウ 教育相談体制の充実</p> <p>エ 体罰根絶に向けた取組の充実</p>	<p>ア・早朝立ち番指導(挨拶と自転車指導、遅刻指導)を継続徹底する。(H29:544件)</p> <p>イ 学校教育自己診断において、「日常のあいさつをきちんとできている。」という回答率を98%以上とする。(H29:普通科76,1%,体育科96,1%)</p> <p>ウ・普通科生徒の部活動入部を促進するため、新たな取組みを検討・実施する。 ・同窓会(「踏翔会」)及び運動部OB・OG組織(「踏翔体育会」)の連携促進により、一層の運動部活動の活性化を図る。(H29:165名)</p> <p>エ・教育相談室の有効活用を促進する。 ・人権学習の内容充実を図り、生徒・教職員の人権意識の高揚を図る。</p> <p>オ・教職員に対する体罰根絶に向けた校内研修を充実させ、正しい部活動指導の在り方について意識高揚を図る。</p> <p>カ・職員会議等における不祥事根絶に向けた意識啓発を継続する。(H29:7回)</p>	<p>ア・遅刻者数500件以下を目標とする。</p> <p>ウ・普通科の部活動入部率を70%以上とする。(H29:男子70.6%、女子43.4%) ・「踏翔体育会」定例総会の参加者数を170名以上とする。</p> <p>エ・学校教育自己診断において、教育相談に対する肯定的回答を70%以上とする。(H29:48.6%) ・学校教育自己診断において「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」という回答率を80%以上とする。(H29:普通科64.4%、体育科:80.0%) ・人権学習の生徒アンケートにおいて「関心をもっていますか。」とする肯定回答率を75%以上とする。(H29:69,9%)</p> <p>オ・H30は各学期に実施する。</p> <p>カ・1月期2回、2学期2回、3学期1回の実施をめざす。</p>	<p>ア・遅刻者数は843件であり、目標を達成できなかった。教職員間で一層の共通認識を深め、学校全体として指導を継続する(△)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断において、「先生は言葉遣いなどについて指導してくれる」の肯定率は76.3%(普通科73.1%、体育科84.3%)であった。質問内容を指導内容を問うものに変更したが、一定目標は達成したと考える。(○)</p> <p>ウ・普通科の部活動入部率は64%であったが、(男子64.9%女子63.5%)女子の加入率は20ポイントと大幅に上昇した。次年度も部活紹介を充実させるなど加入率の向上に取り組む。(○) ・「踏翔体育会」定例総会の参加者数を約150名であった。(△)</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断において、「教育相談」に対する肯定的は47.5%であり、昨年度と変化はなかった。次年度は教員の資質向上に加え、生徒自身が教育相談を積極的に有効活用できるよう啓発に努める。(△) ・生徒向け学校教育自己診断において「命の大切さ等を学ぶ機会」の肯定率は59.1%(普通科53.5% 体育科74.1%)にとどまった。(△) ・人権学習生徒アンケート結果の肯定率は74.1%であり、概ね目標は達成したと考えるが、引き続き、次年度もHR等の「人権学習」の内容の充実に取り組みたい。(○)</p> <p>オ・人権研修等の校内研修、職員会議などにおいて実施した。(○)</p> <p>カ・すべての職員会議において、不祥事根絶に向けた意識啓発を行った。(◎)</p>

府立大塚高等学校

<p>4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進</p>	<p>競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組みの強化 ア 競技力向上のためのスポーツ環境の整備</p> <p>イ 地域スポーツの普及・振興</p> <p>ウ 地域交流・地域貢献の推進</p> <p>エ 学校広報の充実</p>	<p>ア・運動部活動の活性化と推進を図るためのソフト・ハード面の充実を図る。 ・高校スポーツ界の夢の舞台である全国高校総体への出場をめざし、さらなる競技力の向上を図る。 ・運動部活動における、活動時間や活動日の見直しや顧問の指導時間についても「働き方改革」の観点から各学期に検討会を行う。 部活動活動時間及び指導時間は、(平日授業日は3時間、土日祝日など全日活動日は、6時間)を上限目標とする。また、週1日の活動休止日を引き続き継続する。</p> <p>イ・地元小学生対象の「ふれあい大塚スポーツ教室」の充実発展及び地元中学校運動部との連携と交流を推進する。</p> <p>ウ・地域交流としてスポーツ関連事業や市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加して地域交流、地域貢献を進める。</p>	<p>ア・スポーツ講演会、スーパーインストラクター招へい事業の生徒対象のアンケートにおける満足度を85%以上とする。(H29:82%) ・全国高校総体への出場クラブ数を5クラブ以上を目標とする。(H29:男子バレー、陸上、)</p> <p>・「働き方改革」の観点からの検討会を行う。</p> <p>イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目増と200名以上の参加者を募る。(H29:4種目172名)</p> <p>ウ・文化部の保育園や老人福祉施設等への交流事業を促進する。(H29:ダンス:3回) ・学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」と回答する率を70%以上とする。(H29:普通科32.0%、体育科61.4%) ・学校教育自己診断において、普通科生が「学校に行くのが楽しい。」という回答率を75%以上とする。(H29:70.1%)</p> <p>エ・学校説明会(年間4回実施)の内容を充実させ、参加者1,100名以上とする。(H29:計1072名) ・中学校訪問を全教員が分担して実施し訪問エリアの拡充を図る。(H29:97校) ・学校ホームページのリニューアル充実とリアルタイムでの更新に努め、アクセス数の1割増を図る。(H29:5,700回/月)</p>	<p>ア・スポーツ講演会後の生徒の感想文から、すべての生徒が肯定的とらえていると推測できる。「スーパーインストラクター招へい事業」のクラブ員生徒の満足度は100%であった。次年度も引き続き取り組んでいく。(◎)</p> <p>・全国高校総体への出場クラブは2クラブであった。(男子バレー、陸上、)(△)</p> <p>・「部活動ガイドライン」の運用について、「働き方改革」の観点も踏まえ、顧問会議で検討した。(○)</p> <p>イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」は5種目で実施し、153名の参加があった。種目は増加したものの参加者数は微減であった。次年度は対象校の拡大を検討したい。(△)</p> <p>ウ・部員の減少等により、老人福祉施設等への交流事業は実施できなかった。(△) ・生徒向け学校教育自己診断で、「地域等の交流機会」の肯定率は38.2%(普通科29.8%、体育科60.7%)であり、昨年度と同様にとどまった。(△) ・生徒向け学校教育自己診断において、普通科生の「学校に行くのが楽しい」の肯定率は68.3%と昨年と比べ微減にとどまった。(△) 普通科の教育活動の一層の充実が課題である。</p> <p>エ・募集クラスの減少の影響もあり、学校説明会(年間4回実施)の参加者943名で目標に達していなかったが、参加者アンケートで「よくない」の回答は「0」であり、充実した内容であったと考える。(○) ・教員が分担して116校の中学校訪問を行った。(◎)</p> <p>・平成17年度からの年間の平均アクセス数は10000件で、今年度も同様であった。(△) 次年度はHPの民間委託化も含め効果的な広報に取り組んでいきたい。</p>
<p>5 担う人材の育成</p>	<p>若手教員の育成とミドルリーダーの養成</p>	<p>ア・初任者も含め、2年目から4年目までの教員を対象とした「フレッシュマン・セミナー」を開催し、人材の育成を図る。</p>	<p>ア・「フレッシュマン・セミナー」の開催(5回以上)</p>	<p>ア・フレッシュマンセミナーを7回実施した。次年度も継続して取り組んでいきたい。(◎)</p>